

# 空間デザイン 日本一

熊本高専八代

全国の高専生がデザイン力を競うコンテスト「デザインコン2021」の空間デザイン部門で、熊本高専八代キャンパス（八代市）の建築社会デザイン工学科の5年生チームが最優秀賞に輝いた。地域特産のイ草作りを身近に感じられる空間を提案した。

## イ草作りを身近に 開放的な交流の場

同部門は今年、「住み継がれるすまい」をテーマに143作品が応募。図面による予選を通過した12チームが4日、広島県呉市であった本選でプレゼンテーションなどに

べ、後継者が減っている課題の解決策として、開放的な空間で生産者や訪れた人の交流の場を創出することを提案した。

提案した作品のタイトルは「い草と人のよりどころ」で、模型も作製。同市千丁町をイメージし、休憩所やカフェなど人々が集える施設を、農家とイ草畑の間を流れる用水路の上に設けた。農村の風景に溶け込むことを意識したという。

審査では、調査力や表現力が高く評価された。リーダの光永さんは「地域伝統のイ草栽培が続けられるよう、メンバーで議論を重ねた。人が集まりやすくするため、開かれた空間づくりを目指した」と話した。

同校が同コンテストで最優秀賞を獲得したのは6年ぶり3度目。（元村彩）



最優秀賞を獲得した作品「い草と人のよりどころ」の模型を前にする熊本高専八代キャンパスの学生ら（八代市）



熊本高専八代キャンパスチームの作品「い草と人のよりどころ」の模型。イ草畑に隣接する用水路の上に人々が集える空間を提案した